

消費税の計算方法の変更について

< 勘定奉行V・i シリーズ全般 >

消費税の計算方法を変更するには、目的に応じて、2つのパターンがあります。

- A. 消費税の計算方法を、伝票入力時に一時的に変更する。
- B. 消費税の計算方法を、恒久的に変更する。（今後は主に、変更後の計算方法を使用する。）

A. 消費税の計算方法を、伝票入力時に一時的に変更する。

入力中の仕訳に対してだけ、変更を一時的に反映させる場合の手順を説明します。

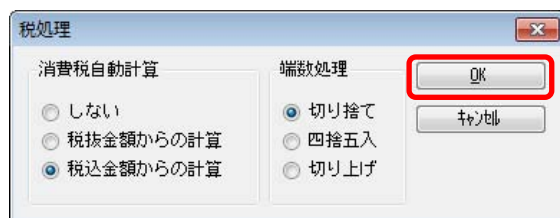
※入力中の仕訳に対してだけでなく、今後は主に、変更後の計算方法を使用する場合は、「B.」をご確認ください。

◎消費税自動計算・端数処理を一時的に変更する

1. 伝票の入力画面で、消費税自動計算・端数処理を変更する勘定科目にカーソルをあわせて、**[税処理]**（F5）を押します。



2. [税処理]画面が表示されるので、消費税自動計算・端数処理を変更して [OK] ボタンをクリックします。



消費税自動計算を「しない」に変更すると、以下のように、消費税が自動計算されません。

勘定科目 / 補助科目	金額
704 接待交際費	10,000
課仕入 5.0%	(476)

勘定科目 / 補助科目	金額
704 接待交際費	10,000
課仕入 5.0%	



◎税区分を変更する

1. 伝票の入力画面で、税区分を変更する勘定科目にカーソルをあわせて、[税区分] (F4) を押します。

行	勘定科目 / 補助科目	金額	借方	貸方	摘要
1	704 接待交際費	10,000	100	現金	
		5.0%	(476)		
2					
3					
4					
5					
借方合計		10,000		貸方合計	10,000
				貸借差額	0

2. 金額の左側にある、税区分コード欄にカーソルが移動しますので、税区分 (コード) を変更します。

税区分コード欄で[Space]キーを押すと、税区分を検索できます。
[税区分検索]画面で、変更後の税区分を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

コード	税区分名
0000	対象外
0001	非課税仕入
0002	不課税仕入
0003	不課税売上
0010	課税売上分課税仕入
0011	非課税売上分課税仕入
0012	共通売上分課税仕入
0050	課税売上分輸入仕入の消費税
0051	非課税売上分輸入仕入の消費税
0052	共通売上分輸入仕入の消費税
0053	輸入仕入の地方消費税
0060	課税売上
0061	課税売上の返還等
0062	課税売上の貸倒れ
0063	課税売上の貸倒れ回収
0080	非課税売上
0081	有価証券の譲渡
0090	課税輸出売上 (免税売上)
0091	非課税輸出売上
9999	未確定



例えば、税区分を「0010：課税売上分課税仕入」から「0001：非課税仕入」変更すると、以下のように、税区分の表示がなくなり、消費税も計算されません。

勘定科目 / 補助科目	金額
704 接待交際費	10,000
	5.0%
	(476)

勘定科目 / 補助科目	金額
704 接待交際費	10,000

B. 消費税の計算方法を、恒久的に変更する。（今後は主に、変更後の計算方法を使用する。）

今後は主に、変更後の計算方法を使用する場合の手順を説明します。

※入力中の仕訳に対してだけ、変更を反映させる場合は、「A.」をご確認ください。

1. [導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニューを選択します。
2. 勘定科目コード欄に、消費税の計算方法を変更する勘定科目コードを入力します。
※勘定科目コード欄で[Space]キーを押すと、勘定科目を検索できます。
3. [消費税]ページを選択し、消費税の計算方法（税区分・消費税自動計算・端数処理）を変更します。

修正		
コード	704	
勘定科目名	接待交際費	
インデックス	仕訳明細化	
基本	消費税	
借方税区分	0010	課税売上分課税仕入
貸方税区分	0010	課税売上分課税仕入
消費税自動計算	2	税込金額から計算
端数処理	2	切り捨て
事業区分	0001	第1種(卸売業)

4. [登録] (F12) を押します。

注意

変更内容は、すでに登録されている伝票には反映されません。

登録済みの伝票にも反映させる場合は、「A.」の方法で、1伝票ごとに修正します。

<用途によって課税・非課税が異なる場合>

接待交際費のように、慶弔のときは非課税で計上するなど、用途によって課税・非課税が異なるために勘定科目単位で消費税の計算方法を決定できないものもあります。

そういった場合は、用途ごとに補助科目を登録し、補助科目単位で消費税の計算方法を決定します。

勘定科目単位で消費税の計算方法を決定できる場合は、以上で作業は完了です。

用途によって課税・非課税が異なる場合は、続いて、以下の内容をご確認ください。

5. [導入処理]-[科目体系登録]-[補助科目登録]メニューを選択します。
6. 勘定科目コード欄に、補助科目を登録する勘定科目コードを入力します。
※勘定科目コード欄で[Space]キーを押すと、勘定科目を検索できます。

7. 用途ごとに（課税・非課税ごとに）、補助科目を登録します。

例)

コード	名称	税区分
001	通常課税分	課税売上分課税仕入
002	冠婚葬祭非課税分	非課税仕入

「001：通常通常課税分」の登録

新規

勘定科目 704 接待交際費

コード 001

補助科目名 通常課税分

インデックス ヲゾウカセイ

消費税

☒ 勘定科目と同じ設定にする

借方税区分 0010 課税売上分課税仕入

貸方税区分 0010 課税売上分課税仕入

消費税自動計算 2 税込金額から計算

端数処理 2 切り捨て

事業区分 0001 第1種(卸売業)

消費税の計算方法が、勘定科目（接待交際費）に設定したのと同じ場合は、「勘定科目と同じ設定にする」チェックボックスのチェックを外さずに、登録します。それにより、自動的に勘定科目と同じ計算方法が設定されます。

「002：冠婚葬祭非課税分」の登録

新規

勘定科目 704 接待交際費

コード 002

補助科目名 冠婚葬祭非課税分

インデックス カコウサカセ

消費税

☐ 勘定科目と同じ設定にする

借方税区分 0001 非課税仕入

貸方税区分 0001 非課税仕入

消費税自動計算 2 税込金額から計算

端数処理 2 切り捨て

事業区分 0001 第1種(卸売業)

勘定科目（接待交際費）とは異なる計算方法を設定する場合は、「勘定科目と同じ設定にする」チェックボックスのチェックを外します。税区分などを変更して、登録します。



上記のように補助科目を登録すると、伝票上、同じ勘定科目でも、指定された補助科目によって、消費税の計算方法が切り替わります。

704 接待交際費	課仕入	10,000
001 通常課税分	5.0%	(476)
704 接待交際費		10,000
002 冠婚葬祭非課税分		

注意

補助科目についても、変更内容は、すでに登録されている伝票には反映されません。登録済みの伝票にも反映させる場合は、「A.」の方法で、1伝票ごとに修正します。